

駐日エリトリア大使館報道発表：

2020年12月21日付 日本の内閣による在アスマラ大使館新規開設の決定に関して

日本・エリトリア関係は、エリトリアが「イタリア領エリトリア」と呼ばれた時代にまで遡ります。その当時から、日本とエリトリアは非常に活発な貿易および投資を行なっていました。日本との外交関係は、1936年9月に日本と「イタリア領エリトリア」との間で樹立されました。

Nippon Mining(当時)の地元および日本の専門家は、1970年代初頭にエリトリアの Embaderho、Adi Rassi、Debarwa、Adi Nefas、Weki およびその他地域に存在する主要な硫化物鉱床を明らかにしました。日本企業は、1960年代後半から70年代前半にかけて、エリトリアの皮革、綿、家庭用品、アルミニウム、その他中小製造業に投資を行いました。

日本は1970年代初頭にアフリカに向けた海外経済協力基金(OECF)を開始させました。アフリカでの最初の円借款契約は、1973年5月にエチオピアとの間に結ばれたものでした。この時期はNippon Miningや日本企業がエリトリアで投資活動を開始した時期と一致します。1974年2月には、マッサワ港やアッサブ港開発のマスタープランが海外技術協力事業団(OTCA)によって完成されました。

駐日エリトリア国大使館は2003年7月11日に東京に開設されました。2020年12月21日、日本の内閣はアスマラに日本大使館を開設することを決定しました。

エリトリアはアフリカと紅海、地中海、インド洋の商業中心地との間の貿易回廊であり、日本との協力により、アフリカの角地域における安定を維持し繁栄を確かなものにする方法を模索することはエリトリアの義務です。日本は世界の経済大国の一つであり、エリトリアと協力し、アフリカの角地域、特に紅海の貿易ルートにおいて安定を維持し繁栄を確かなものにする方法を模索することが不可欠です。

したがって、エリトリア政府はアスマラに大使館を開設するという日本の内閣の決定を歓迎します。この決定は間違いなく両国間の友好関係を増進、強化し、それに資するものとなるでしょう。

メリークリスマス、そしてハッピーニューイヤー！

2020年12月21日